

こけしの話

柴田長吉郎

1. こけしとは？

私は趣味で伝統こけしを蒐めています。ここで「こけし」について考えてみたいと思います。私は、「こけし」という人形は、我国独特の感性の産物だと思うのです。「木製のロクロ細工で手も足もない、丸い胴と頭」のみの人形ですが、これを人形と思うのはどうも日本（あるいは東洋）独特の感性で、欧米の人びとにはまことに不自然な奇妙な玩具に見えるようです。その一つの現われとして、明治時代に日本の入れ子のこけしにヒントを得て作られたロシアの「マトリョーシカ」には、ちゃんと両脇に手が描かれています。これがないと、彼等には人形には見えないのでしょうか。このような極端な省略は日本独特のもので、文学の方では俳句にそれが端的にあらわれています。わずか17文字で、森羅万象を写す俳句は我国で独自に発展した短詩ですが、俳句を深く研究した俳人正岡子規は、その俳論で「純客観の句を作れ」と述べました。その一例として、芭蕉の有名な一句「荒海や佐渡に横たう天の河」の句を挙げておりますが、ここには一言も芭蕉の感覚をあらわす言葉が含まれておりません。読む人々は、広い宇宙の雄大な風景を心に描きますが、それはすべて読む人の想像の世界なのです。このような我々の自由な感性が、こけしを人形と思わせるので、この意味で私は、こけしの世界は俳句の世界に通じる我々独特の感性の産物と思うのです。最近、西欧でもこのことが判って来て、俳句の短詩形を真似た短詩が試みられているのです。

2. こけしの種類—新型こけし、創作こけしと伝統こけし

こけしはもともと、東北地方固有の郷土玩具ですが、戦後、各地の観光地でそのロクロ技術を利用して、その土地にちなんだお土産のこけしが作られました。これらのお土産のこけしを新型こけしと呼んでいます。

また、ロクロで木地を挽く技術を利用して、ある主題を表わす人形を作ったものを創作こけしと呼んでおり、戦後盛んになって、これを専門に作る作者もあらわれて来ました。新型こけしは各地の風景や物語り（たとえ

ば、熱海の貫一・お宮など）に因んで作られたお土産の人形ですが、創作こけしはそのデザイン自体が一つの創作で、一般に「主題（テーマ）」をもっております。

即ち、創作こけしは、そのデザインが、いかに主題を表現しているかが勝負なので、ロクロの技術はそれを表現する一つの手段なのです。

東北地方に生まれ伝えられて来た郷土玩具としてのこけしは、同じ形や模様が代々伝えられて行くうちにその土地に定着して、その土地の風土に適合したものとなり、東北地方の各土地でそれぞれに伝えられた独特の模様や形がその土地独自の特色を持つようになったもので、これを伝統こけしと呼んで他のこけしと区別しており、伝統こけしは伝えられた風土性や作る人の感覚の表出が主眼であって、創作こけしのように「主題」はないのです。



創作こけし

3. 伝統こけしのすべて

3.1 こけしの成り立ちとふるさと

伝統こけしは、東北各地の木の椀や盆などを挽く木地屋が、湯治場などの子供の玩具として作ったものと思われま

す。その他信仰の対象物から変化したと言う説もあります。ともかく、こけしの故郷は東北地方であり、東北の風土の味わいを宿した郷土玩具と言えましょう。

伝統こけしは東北六県で生まれ伝えられて来たもので他にはありません。何故東北地方以外には無いかは、いろいろの説明が試みられていますが、まだ謎といふべきかも知れません。

その生まれた時期についても、文化・文政の頃と考えられていますが、確証はありません。現存のこけしは明治以後のもので、ただ幕末頃の古文書にこけしの存在が記されているのです。

東北各地でつくられたこけしは、師弟相伝の形で、その製作技術や形・模様等が一族や弟子に伝えられて、その土地、その家系に定着して、他所に無い独特の物となりました。これが伝統こけしなのです。

3.2 伝統こけしの形と構造

こけしは円い頭と胴のみからなっており、このように手も足もない人形は、日本独特の物で、他に例がありません。

頭部と胴との接続法により、次のような種類があります。

・作り付け

頭と胴が一本の木でつながったもので、最も簡単な工法です。津軽系、木地山系のほか、各地の小寸物に